

## 平成 29 年度 第 3 回わくわく市民懇談会

1 日 時 平成 29 年 8 月 26 日(土) 午後 5 時から午後 6 時まで

2 場 所 アップルシティーなかの

3 出席者 平野・高丘地区合同区長会 49 名  
市長、随員職員 2 名

4 市長講話

(テーマ)

- ・自治体経営～中野市を経営する～
- ・変化・変容への対応
- ・大切な現場力
- ・新しい発想 チャレンジ精神の克己
- ・人を育てる 成長することに喜びを感じる組織
- ・関係性が大切な視点～公民連携・市民協働～

皆さまこんにちは、中野市長の池田でございます。

今日は、今どのようなことをやろうと考えているのか、私自身がどのように考えているのかについてを中心にお話したいと思います。

その前に、長島さんからお話がありましたが、17日の集中豪雨により、各地で水害被害が発生しているところではありますが、中野市としても、さらに水害対策に注意していかなければいけないと考えています。今回の被害については、農地関係が23カ所程度と聞いていますが、今後これよりも増えるかもしれませんが、復旧に向けて努めていきたいと思っています。

それでは、レジュメに従いまして、お話させていただきたいと思います。はじめに、自治体経営ということで、かねがね市長になってから中野市の経営ということで努めてまいりました。中野市の一般会計予算は、230億円程度で経常収支比率が約85%の状況にあります。経営の内訳をみますと、三割自治ということで税収が三分の一、地方交付税が三分の一、借金が三分の一という割合になっています。財政力指数が約0.5でして、これが1になりますと不交付団体となって地方交付税の交付がされない自治体になります。全国には800ほどの市がありますが、そのなかで人口4万3千人ほどの自治体と比べて財政力をみますと、中野市は良い方に入るんじゃないかと思っています。財政につきましては、市の職員の皆さんに上手く運用していただいているおかげで、良い状態に保っている状況にあります。

さて、自治体を経営するということはどういうことか、考えますと、世の中ではヒト・モノ・カネ・情報の経営資源が必要になってきますが、自治体も同様になります。お金については、先ほど申し上げた重要な項目になりますが、これからはヒトがさらに重要になってくると考えます。中野市にとって必要な人材をいかに育てるかが重要になってきます。今年、農協さんの協力を得て、農業経営塾をスタートしました。地域内外の方にコーディネーターになってもらい、これからの時代を担っていく農業経

営者に勉強していただくということを進めています。また、庁内研究所（政策研究所）を発足しまして、将来の中野市を考えるとのかたちで継続的に広い視野を持って、これからの行政を担ってもらう人材を育てるということで進めています。今のうちから、長期的な視野を持って、物事に当たる感覚を掴んでもらうことは行政にとって非常に重要だと思っています。どうしても、将来こうなりたいというビジョンを持って動いている職員が少ないように感じていまして、縦割り行政のなかで与えられた使命、降って湧いてくる課題に対して、今、処理しなければいけないというふうに取り組んでいるのが実情です。そんな中で、自分の領域はあまり広げたくないというような面も多々あるわけですが、ご案内のとおり、どんな企業にしましても、多能化だったり、横との連携などそういう環境のなかで持てるアイデアは誰が出してもいいような雰囲気や時代環境にあった変化に対応していけるような組織作りが民間企業をはじめ、進められています。自治体においても、人材の質における問題は、国や県の施策の動向にキャッチアップしていくようなヒトを育てることが重要になってくると考えています。今、地方創生の一環で国が新しい取り組みを始めています。そういったことを瞬時に掴んで、中野市でもやってみようというような声は出てきませんし、私から一つ何か提案をすると、まず既存の法律や条例のなかで物事を考え、「それは出来ません」と返ってくるのが、多くあります。あくまでも条例などは人が作ったものですので、条例を変えていくなど新しい発想で取り組む風土づくりが大切だと思っています。

さて、ここからは経営資源の一つである情報についてお話したいのですが、専門担当者に情報は集まってくるものです。市役所でいえば、各部署の窓口になりますが、市民の皆さまから「これはどうなんだ、どうにかならないのか」などの声が集まってくるものを考え、発想していくことで新しいサービスなどを生み出す機会になります。一方で、国や県からさまざまな条例の変更などの情報が降りてくるわけですが、中野市にとってはどうなのかなど、それらに素早く反応する人を育てていくことが重

要だと感じています。敏感であるということがこれから非常に重要になってくると感じていまして、近隣の市町村のなかでも反応の度合いの違いによって、それらに遅れてしまうことが無いように付いていかなければなりません。大切なのは、現場など最前線にいる職員や市民の皆さまの気づきがあってこそだと思いますので、現場力を大切にしていけることが大事だと考えています。

また、新しい企画をした場合に企画を誰がやるかといったときに、動ける人が少ないのが現実です。動ける人、集団を形成していく、そういったものの考え方を育てていくことが重要だと思っています。いずれにしましても、新しいことに挑戦して、とにかくやってみる、やってダメなら引けばいい、押してダメなら引けばいいというような風土・環境をどのように作っていくかというのがこれからの挑戦だと思っています。しかし、行政は、皆さまの税金で運営をしているわけで、あまり失敗は許されないという世界でもあるため、そこでの両立は難しいところもあるのが現実です。

さて、タイトな財政状況のなかで思い切ったことをやるために、今までの起債をして自己資金を用意してやるようなやり方では思い切ったことは出来ない状況のなかで、新しく考えていかなければいけないと感じているのが、PPPやPFIなどの公民連携です。これについては、民間企業の活用となると、公平公正のなかで展開していかなければならないように、透明性を大事に進めていかなければいけないなと思っています。

いずれにしましても、中野市の置かれている状況というのは、一般会計予算は先ほどお話したとおりであります。借金が400億円程度あります。これは、「借金がゼロならいい」というのは、あまりにも経営感覚がない話であって、やるべき時には借金をしてでもやらなければいけません。こうした借金は、投資になりますので、災害対策などやるべきことはやっていくということを考えている次第です。

さて、この4年間を振り返ってみますと、まだまだ自分には満足していないわけで

す。まず、農産物の売り上げを外に伸ばすということで横浜や東京、神戸などに行って販売促進、宣伝を市外に向けて動いてきたわけですが、市内のインフラをきちっとしたビジョンを描いて作っていきたいなと思っています。たとえば、ぼたんこしょうの原産地呼称制度などを取り入れて取り組んでいるところですが、中野といたら、あの場所だなというような拠点が無いのが集客という点で考えたときに足りないなと感じています。これから、改めて市内全体を見回してみて、どのようなインフラ整備が必要なのか考えて行きたいと思います。市民の方からご要望などいただき、考えていかなければいけないのですが、市庁舎が出来ましたら、土日でも入って使用可能な市民スペースがあります。そういったときに、皆さまの活動や展示会などを開催できる場所になっていくわけですが、これからはいろいろな建物をスクラップアンドビルドしていかなければいけないなと感じているところです。

そして、拠点が欲しいということを考えていまして、これからバラ公園を整備していきなさいなと考えています。バラ公園は、街中にあることから全国的にも珍しいということが分かってきました。また、観光資源として、さらに活かす必要があると考えています。今年のバラまつりは、5万人ほどのお客さんに来園していただいたわけですが、お客さんからは、「街の中にバラ公園があるのは珍しい」という声が多く聞こえてきました。一方で、中野市は食の宝庫でもありますので、そういった食を提供できるような場所が必要だと思っています。これについては、青木市長が考えたのがスタートだと思いますが、本格的に考えていかなければ、中野市に足を止めてもらえないと感じています。

話は変わりますが、先日、空家等対策協議会が設立されました。これから空き家の在りようや活用をさらに進めていきたいと考えています。空き家には、住宅や店舗もありますので、それらの活用について幅広く検討をしていかなければなりません。市内には、180棟近くの空き家があるのですが、そのうち倒壊などの危険がある空き家は

10 棟近くあるので、この問題も処理していかなければなりません。町の景観もさることながら、街の趣など良い状態を作っていかなければなりません。小布施町などは条例を制定して、2棟ほど解体をしたそうで、これから中野市もそういった動きが出てくるかなと思っています。そして、そういったまちづくりの観点も進めていきたいと思っています。

いずれにしましても、私が物事を進めるときに基本としていることは、行政が中心となって考えるのもいいですが、区など関係者の委員会などがありまして、それらと行政が一緒になって進めていくということです。一例で言いますと、都市計画道路の立ヶ花東山線の拡幅に伴って、関係者の皆さまが委員会を作って検討しているようで、今度お話をさせていただきます。行政が何かを言って、それを実行してもらうというよりは、「私たちはこうしたい」というような意見交換をするような取り組みがこれから必要だと感じています。

話は変わりますが、中野にも働く場、企業、事業を積極的に推進していく手立てを本格的に作っていきたいと思っています。今の人口が4万3千人ですけど、人口減少問題の中でも人が増えるような取り組みをしていかなければ、これからの市政、財政の運営は難しい状況にあります。主要幹線道路の沿線には、大型店舗が出店し、雇用は生み出されているところではありますが、それ以外にも雇用吸収力のあるところ、ないしは若い企業者が集まってくるような手立てを私たち自身が考えていかなければなりません。人を集めて、人に住んでもらうような、自信のあるまちづくりをしていけるよう、より具体的に勧誘してくるといいますか、そういう動きをこれからしていきたいと思っています。そんな意味でも、2年前に作りました営業推進課を中心に進めていきたいと思っています。これまでは「待ちの姿勢」だったものを「攻めの姿勢」として取り組んでいきたいと思っています。

いずれにしましても、住居施策から始まりまして、産業政策まで様々な政策はあり

ますが、中野市を知ってもらおうということで9月3日にプロ野球の信州なかのナイターが開催されます。そこで、中野市を宣伝するわけですが、中野市という地名をどうするかという問題があります。東京都中野区がありますので、東京の人に聞くとほとんどの方が中野市を知らない状況にあります。市長がどんどん進めれば良いというような声が聞こえてくることもありますが、市民の皆さまは情報を待っていると思います。そういったことから今度、シンポジウムやろうと思っています。平等な情報提供の機会として、シンポジウムを開いて皆さまと議論を深めたいと思っていますので、ぜひご参加ください。

さて、学校の統廃合問題につきまして、それぞれ準備部会が設立されて進められているところですが、私が問題になるだろうなと思っているのが、県で進められている「高校再編」に関することです。中野市にある二つの高校は絶対に存続させるべきだと思っていまして、やはり「知」のあるところに市の発展があると思っていますので、特色あるこの二つの高校について、これからしっかり考えをまとめて、守っていきたいと思います。また、小中学校の再編の問題については、ただ合併され新しい学校となったということではなく、新しいモデルとなるような仕組みを備えた学校としたいと思っています。これからは、教育の中身や特徴を作っていかなければならないと思っています。何にしてもそうですが、他にあるものと同じことをやっても意味がなく、時代を先取りした取り組み、中野市だからこそ出来る学校を作っていくことが必要になってくると思われまます。いずれにしましても、時代の変化は激しいのでいままでの発想や思考では難しいと感じています。

最後になりますが、広い都市連携のなかで、千曲川の活用ということで SEA TO SUMMIT が開催されます。自然を満喫するというので、モンベル社が企画しているものです。それになぞらえて、長野市、須坂市、飯山市と連携をしまして、千曲川を船で下って遊べるような一大観光施設を作ろうというようなことがこれから進んでくる

かもしれません。広い意味での観光開発もこれから必要になってくると思われます。連携することによって伸びるとは限りませんが、これからも中野市独自の良さを発信していかなければなりません。ただ中野市の商圈は広く、外から中野市に買い物にくる人は多い状況にあるので、ここは地の利だと思しますので、北信地域の経済の中心として育てていく必要があります。そういったことから、企業、事業の誘致に乗り出して進めていきたいと考えています。

甚だ、まとまりませんが、これから道路などのインフラ整備をやっていくなかで「経済政策」を中心に市の行政にあたっていきますので、どうぞよろしく申し上げます。今日はありがとうございました。

#### 《質疑応答・要望①》

空家等対策協議会の構成員はどうなっていますか。また、進捗具合はどのような感じか教えてください。

(市長)

司法書士、行政書士など多くの専門家の方に参加してもらっています。先日、第一回の協議会が開催されまして、これから計画を作っていく段階になります。進捗具合などについては、随時公表していく予定ですので、注視していただければと思います。